

1 本園の教育目標

明るく逞しく、心豊かで調和のとれた、円満な人間性の基礎を育む

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・主体性を持って研修に参加し、自分の役割に責任を持ち、協力し合う体制づくりを行う
- ・一人ひとりの育ちを全職員で共通理解し、多角的に見守り、一人ひとりに寄り添った支援を考える

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
I 保育の計画性	A	去年に引き続き、幼児の遊びの姿をドキュメントにし、職員間で語り合い、多様な視点や短期・長期の時間軸を組み合わせて、発達の理解を深めながら保育の計画や環境を設定している。昨年作成した園庭マップを見返し、異年齢の交流がもっと活発になるような園庭活用を見直しつつある。
II 保育の在り方	A	個々の幼児の姿を理解するため、記録を取り、互いに学び合う機会を重ねながら共通の視点を持ち、学年を越えたチーム保育に努めている。
III 教師としての資質・能力	B	教師一人ひとりが、園運営に参加関与しているという意識で自己有用感を持ち、教育内容の向上と改善に主体的に取り組んだ。
IV 保護者対応	A	保護者アンケート等での意見・評価から行事等の見直しを行うとともに、園生活や遊びの様子はホームページや保育室の写真掲示等で発信した。園内での事故やケガ、体調の変化については、状況を的確に報告することを心掛けた。
V 研修と研究	B	研修報告で自分自身を振り返り、得た知識を保育に取り入れることでスキルアップにつなげていった。今日的課題に対して、積極的に園内研修を行い、保護者や地域の支援事業との連携を図りながら、保育につなげている。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	保護者アンケートや役員会等での意見を踏まえ、行事や保育の見直し、指導の改善を行った。幼児の発想や活動の展開を大切に、指導計画や教育内容を柔軟に修正しながら保育を展開している。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	環境構成・幼児理解	幼児との触れ合いを楽しみながら、幼児自ら環境に働きかけることができ、多様な体験ができるような環境づくりに取り組む。一人ひとりの子どもに向き合い、人的環境としての教師であることを強く意識付けていく。
2	保護者対応・子育て支援	在園児だけでなく、未就園児の保護者にも園の教育を理解してもらうための発信の工夫に引き続き取り組む。保育参観や行事の見直しを継続的に行うとともに、保護者同士が交流できる機会となるよう工夫していきたい。また職員のコミュニケーションスキルやマナー・対応力に関する研修を取り入れていきたい。
3	安全対策・危機管理	安全管理マニュアルや危機管理マニュアルの見直しや改善を行い、研修や訓練にも積極的に参加する。特に近い将来予想されている地震への対応については、早急に進めていく。 合わせて食の安全ということにも、これまで以上に目を向け、食育活動にも積極的に取り組む。

6 学校関係者評価委員会の評価

- ・教育目標をもとに、今年度もしっかりと計画立て園全体で取り組んでいることが分かる。しかし、園と家庭との連携、広く声を聴くことなど、少し工夫をして今後の課題「人的環境」へ取り組んでほしい。また安全・危機管理への取組、食育活動にも期待したい。
- ・先生方一人ひとりが「自分でなく、自分の園として考える」という方針になっており、教師として子どもたちを中心に向上心を持って主体的に取り組んでいる状況が見て取れる。
- ・安全対策では各種マニュアルの見直しを行っていること、保護者対応としてアンケートをとって意見を積極的に取り組んでいることは写真等で分かりやすくしていることは評価できる。
- ・宗教教育に取り組んでいることはとても良いと思う。
- ・重点的に取り組む目標・計画が抽象的すぎて実効のあるものとは思えない。より具体的目標を設定し、達成程度について検証できる必要があるのではないか。
- ・カトリック園のアイデンティティというところで、困られているように感じるが、カトリック幼稚園という立場を大切にしようと意識しているのを感じ、ありがたく思う。
- ・自己評価もしっかりし、保護者からの評価も高く、よく努力している。強いて課題を求めると、保護者との連絡法に改善が工夫できないかと感じた。
- ・園児の教育方針は園側で主体的に進めるべきだが、経営としては保護者の声を十分くみ取ることが大切と考える。
- ・市内中心部における利便性(防災センター学習等)を生かしてほしい。